

令和5年6月22日

課 名 環境県民局県民活動課

担当者 課長 中村

内 線 2739

第73回“社会を明るくする運動”強調月間について

1 要旨・目的

犯罪や非行からの立ち直りを地域で支えるとともに、犯罪や非行のない安全・安心な社会を築いていくことを目的に、法務省主唱の“社会を明るくする運動”に呼応し、期間中、関係機関・団体の組織を越えた活動を県内各地で展開する。

2 現状・背景

戦後の荒廃期の昭和24年に更生保護制度がスタートしたときに、世の中が明るくなることを期待して行われたキャンペーンがもととなり、昭和26年から「社会を明るくする運動」として、実施している。

3 概要

(1) 実施主体

広島県推進委員会（132 機関・団体から構成）

（ 県、県教育委員会、県警察、広島保護観察所、広島弁護士会、
広島県防犯連合会、広島県商工会議所連合会、広島県保護司会連合会 ）

(2) 実施期間

令和5年7月1日（土）から7月31日（月）までの1か月間

(3) 場所

県内全域

(4) 実施内容

強調月間中に”社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～にふさわしい事業の実施や広報活動を行うなどして推進を図る。

(運動における主な取組)

○作文・標語コンテスト

対 象：小学生・中学生（標語の部は中学生のみ）

テーマ：日常の家庭生活、学校生活の中で体験したことを基に、犯罪・非行のない地域社会づくりや犯罪・非行をした人の立ち直りについて考えたこと、感じたことなど

〆 切：令和5年9月15日（金）

表 彰：最優秀賞1点、優秀賞4点

（作文の部は、最優秀賞を含む3点を、中央推進委員会へ推薦）

○広報啓発活動

各機関・団体におけるポスターの掲出、新聞やテレビ、SNSによる啓発等を実施

一人になるのが嫌だった。
孤立するのが怖かった。
誰かといないと、不安に押しつぶされそうで。

仲間たちに誘われた時、断れなかった。
自分にとっては唯一で、大切なものだったから、
歪な繋がりにすがりついた。

この街に帰ってきて一年。
色んな人に囲まれて、いま、自分は働いている。

元気がないと気づいてくれる食堂のおばちゃん。
失敗を笑い飛ばしてくれる先輩。
仕事の楽しさも厳しさも教えてくれる社長。
自分が罪を犯しても、見捨てなかった幼馴染。

たくさんの顔が思い浮かぶ。
それにすごく、嬉しくなった。

一人でなんでもできるようになることだけが
自立じゃない。
困ったら、誰かを頼ったっていい。

きちんと一人、でも孤独じゃない。

#生きづらさを
生きていく。

犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ
第73回 社会を明るくする運動

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・
再犯防止啓発月間です。

更生ペンギンの
サラちゃん
更生ペンギンの
ホゴちゃん

社明 しゃめい

 検索

